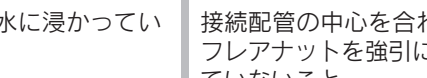
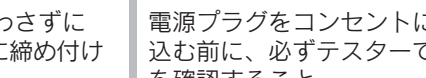
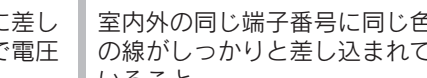
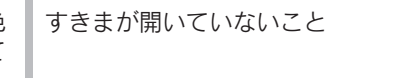



 [一般地仕様] **RATK-2250X**
 [耐塩害仕様] **RATK-2250XE1**

寝室用パネルエアコン(壁掛タイプ)
据付工事説明書

冷媒
R32

よくある施工不良を防止するためのポイント!!

ドレン排水工事不良による水漏れ ドレンホースが水に浸かっていること 	配管の接続不良によるガス漏れ 接続配管の中心を合わせずにフレアナットを強引に締め付けていないこと 	電圧間違えによる機器破損 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずテスターで電圧を確認すること 	内外接続電線の誤配線による工事時間の遅延 室内外の同じ端子番号に同じ色の線がしっかりと差し込まれていないこと 
配管穴のすきまによる雨・風や動物・昆虫などの侵入 すきまが開いていないこと 			

安全上の注意(必ずお守りください)

●据付工事を行う前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく握え付けてください。

●本書では、人への危害や財産への損害を未然に防止するため、安全に関する重要な内容を次のように分類して記載していますので、必ずお守りください。

 警告	人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容です。	 注意	人が軽傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容です。
--	--------------------------	---	-------------------------------

●お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。

	禁止 「してはいけない」内容です。		実行 「しなければならない」内容です。
---	-----------------------------	--	-------------------------------

● 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取扱説明書に従ってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

● 別添えの保証書に必要事項を記入の上、この据付工事説明書・取扱説明書と共にお客様に保管していただくようにお渡しください。

警告

部材・工具

- 据付工事部材は必ず付属品および指定部品を使用する。
当社指定部品を使用しないと、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 据付工事はR32またはR410A用に製造された専用工具・配管部材を使用する。
専用の配管部材を使用しないと破裂やガス漏れの原因になります。
- フレアナットはトルクレンチを使用して締め付ける。
フレアナットを締め付けすぎると、長期間経過後フレアナットが割れガス漏れの原因になります。
- 接続配管はJIS H 3300「鋼及び鋼合金継目無管」のC1220のりん脱酸鋼を使用し、配管接続を確実に行う。
ガス漏れの原因になります。

設置場所

- 室外機はベランダの手すり近くに設置しない。
お子さまが室外機に登り、手すりを乗り越えて転落する原因になります。
- 据付けは重量に充分耐えられる場所で確実に行う。
強度不足や取付けが不完全な場合は、機器の落下によりけがの原因になります。
- 天井取付枠は野縁などの強度のある構造材に確実に設置する
強度不足や取付けが不完全な場合は、機器の落下によりけがの原因になります。

工事

- 据付けはお買い求めの販売店または専門業者に依頼する。
お客様ご自身で据付工事をされ不備があると、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 据付工事はこの据付工事説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 電気工事は電気工士の資格があるかたが「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると火災や感電の原因になります。
- ポンプダウン作業では、接続配管をはずす前に圧縮機を停止する。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- アース工事を確実に行う。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は故障や漏電のときに感電の原因になります。

電源・配線

- 配線の加工、途中接続、延長コードの使用、また電源コードを束ねたり、たこ足配線はしない。
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災や感電の原因になります。
- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線を行う。
絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 配線は所定の内外接続電線を使用して確実に接続し、端子台接続部に内外接続電線の外力が伝わらないように確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、火災や発熱の原因になります。
また、電源コードおよび内外接続電線の中間接続は行わないでください。
- 電源コードおよび内外接続電線は必ず単線を使用する。
より線は絶対に使用しないでください。電源供給や信号伝達ができず作動不良の原因になります。
- 内外接続電線はコード止め金具で確実に固定する。
接続が不完全な場合は、火災や端子台接続部の発熱・感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグとコンセントにほこりの付着・つまり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ほこりの付着・つまり・がたつきがあると、火災や感電の原因になります。
コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。

冷媒ガス

- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない。
冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 指定冷媒以外には使用(補充・入替え)しない。
機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒ガスが室内に漏れてファンヒーター・ストーブ・こんろなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

注意	
設置場所 ● 油煙の多い場所、油成分が浮遊している場所、可燃性ガス・腐食性ガス・金属製のほこりがある場所には設置しない。 万一ガスが漏れて機器の周囲にたまると、火災・故障・腐食の原因になることがあります。 ● 機器は小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると発火・発煙・故障の原因になることがあります。またお客様に周囲をきれいに保つことをお願いしてください。	工事 ● 機器の吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。 ● ドレン排水工事は据付工事説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は室内に漏水し、家財などを濡らす原因になることがあります。 ● 作業時は保護具を着用する。 作業時は手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になることがあります。
用途 ● 他の目的に使用しない この機器は一般家庭の寝室でご使用いただくために製造されたものです。食品・精密機器・美術品の保存や動植物の生育など特殊な用途に使用すると、思わぬ事故の原因になることがあります。	電源 ● 室外機を水気のある場所に設置する場合は漏電遮断器を取り付ける。 漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。 水気のない場所でもできるだけ漏電遮断器を取り付けてください。
工事 ● ドレン排水配管をアンモニアガスやイオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れない。 下水ガスが逆流し配管や機器が著しく腐食して、水漏れや故障の原因になることがあります。	

●製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

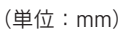
		 (単4形、2本)	 (2枚)	 ※室内機の裏面に取り付けています。
リモコン	リモコンホルダー	乾電池	取付板設置治具	取付板
 (L25、7本)	 (L12、2本)			
タッピンねじ (取付板用)	タッピンねじ (リモコンホルダー用)	取扱説明書	据付工事説明書	保証書

●別梱包品

	 (L8、8本)	 (L40、8本)			 (2個)	 (2個)
天井取付枠 (要組立)	タッピンねじ (天井取付枠組立用)	タッピンねじ (天井取付枠用)	天井断熱材前 (パネル固定具付)	天井断熱材後	天井断熱材壁 (天井断熱材後用)	マグネットキャッチ (天井断熱材後用)
 (L18、4本)	 (2枚)	 (L8、3本)	 (3個)	 (1枚)	 (2枚)	 (1枚)
タッピンねじ (マグネットキャッチ用)	ねじ断熱材(小) (マグネットキャッチ用)	タッピンねじ (天井断熱材用)	平座金 (天井断熱材用)	ねじ断熱材(中) (天井断熱材前用)	ねじ断熱材(大) (天井断熱材後用)	パネル (布カバー付)
 (1個)						
風量バランス調整板						

室内機取付寸法図

室内機

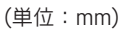


機器の設置

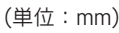
1 取付スペースと野縁(天井下地)位置の確認

- 下図を参考に取付けスペースを確認してください。
- 天井取付枠を天井裏にある野縁(天井下地)に固定する必要があります。天井取付枠が野縁に固定できるか確認してください。
- 天井取付枠は、野縁にねじ止めしないと落下する危険があります。

野縁が室内機と平行の例



野縁が室内機と垂直の例



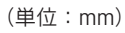
※天井取付枠の野縁へのねじ止めは、最低4箇所必要です。
対面する2辺のできるだけ両端の最低2箇所(合計4箇所)にねじ止めしてください。

- 上記の図は、野縁のピッチが450mmでの設置例です。現地の状況に合わせて施工してください。
野縁は、約300mmか約450mmで配置されていることが多いです。
(野縁のボードビスを磁石で見つけるとわかりやすいです。)

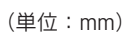
室内機とパネルの取付位置

- 室内機とパネルは、以下の3パターンの取付けができます。設置場所に合わせて選択してください。
●天井取付け枠以外の部分(斜線部)は天井から3mmの隙間があります。天井からの突起物を避けられます。

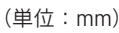
室内機左寄り



室内機中央



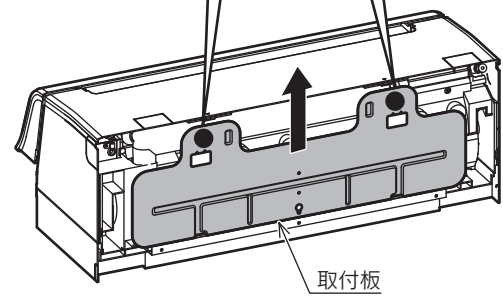
室内機右寄り



2 室内機の準備

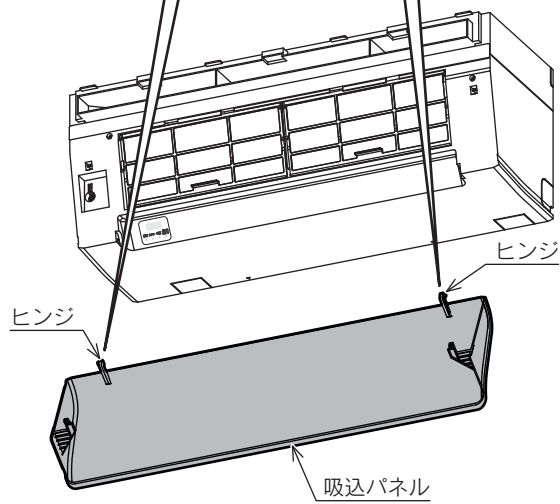
1 取付板をはずす

- 印部を押しながら矢印の方向に引くとはずれます。



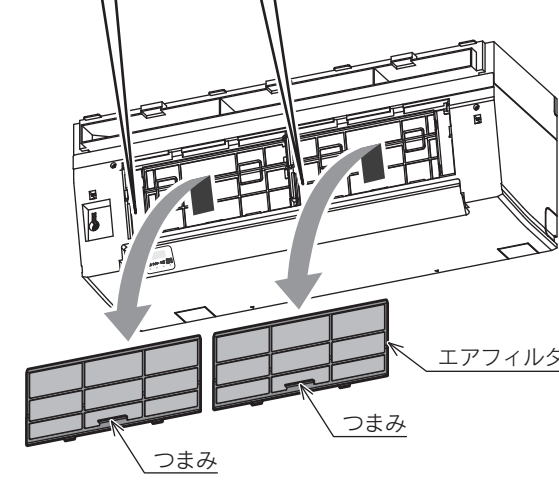
2 吸込パネルを開き取りははずす

- 吸込パネルを全開にしてヒンジを内側に寄せて取りはずします。



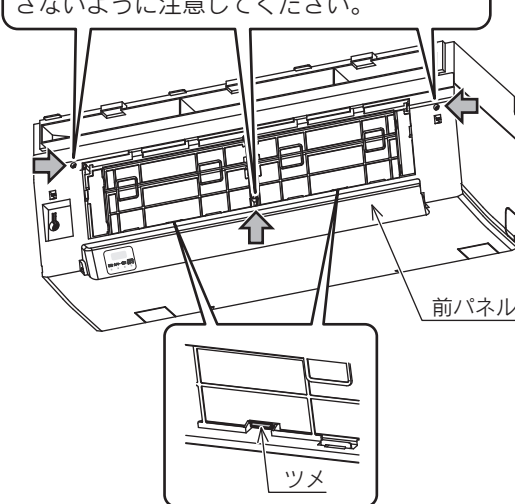
3 エアフィルタ(2枚)をはずす

- エアフィルタのつまみを少し押し上げて手前に引き出します。



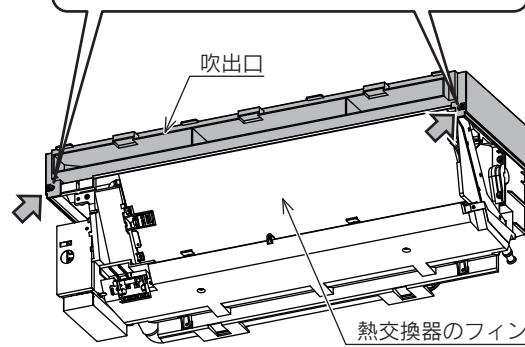
4 前パネルをはずす

- ねじ3箇所(合印)をはずし、ツメ2箇所をはずして引き出します。はずしたねじは再度使用しますので、なくさないように注意してください。



5 吹出口をはずす

- ねじ2箇所(合印)をはずして引き出します。



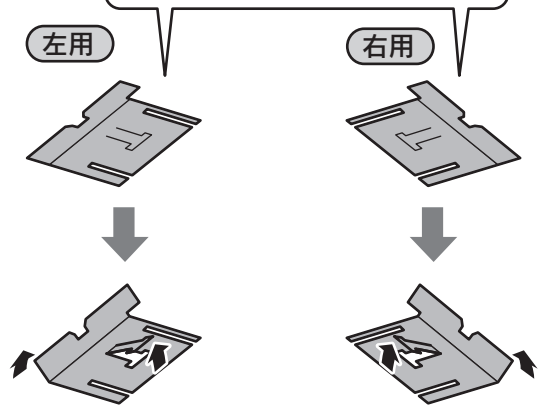
※熱交換器のフィンに触らないでください。けがの原因になることがあります。

3 取付板の取付けと配管穴の位置決め

- 天井を基準にして取付板を壁に取り付けます。
- 天井が水平でない場合は、取付けできません。天井が水平になるように加工してください。
- ルームエアコンからの取替えでは穴位置がずれることがあります。

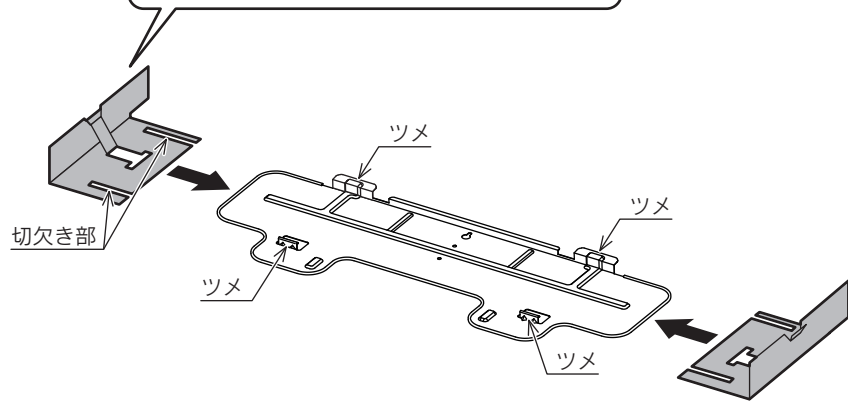
1 取付板設置治具を組み立てる

- 下図のように折って組み立てます。折り方で右用と左用になります。



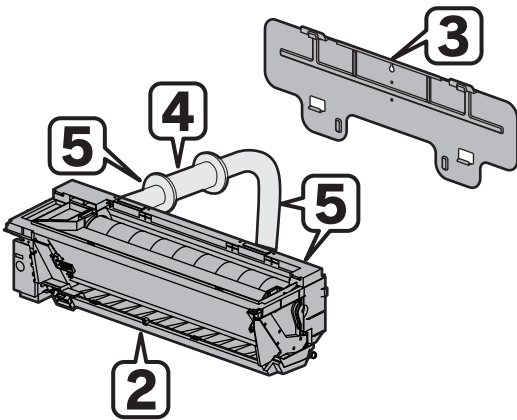
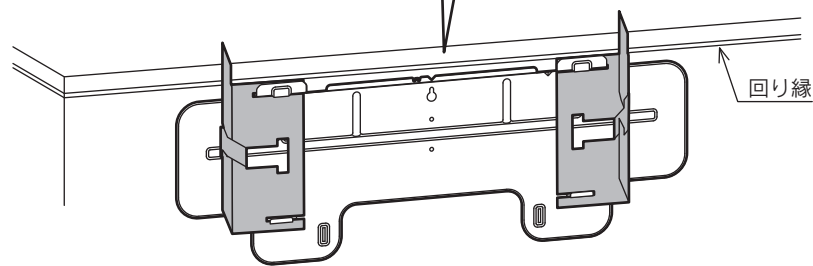
2 取付板に取付板設置治具を差し込む

- 取付板設置治具の切欠き部(2箇所)に取付板のツメを通して奥まで差し込みます。



3 天井に取付板設置治具をあてて位置決めする

- 天井と平行になるよう位置決めします。

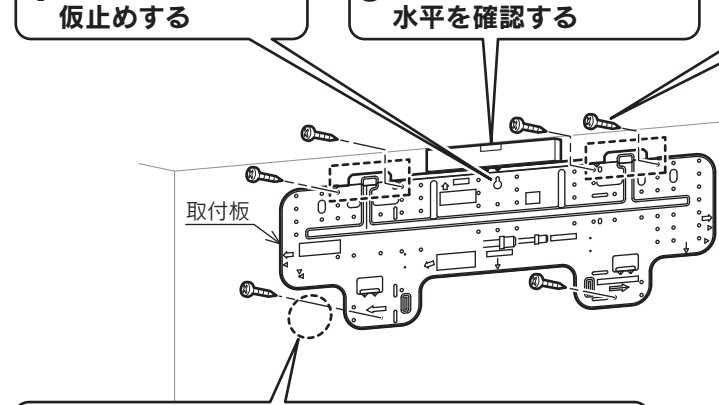


4 タッピンねじ1本で仮止める

5 取付板に水準器をあてて水平を確認する

6 タッピンねじ6本以上で強固に固定する

- 4で仮止めたタッピンねじも使用して壁内の構造体(間柱など)に固定します。[]部周辺はねじ止めするようにしてください。
- 注意：固定部が弱いと異音の原因になることがありますので、必要に応じてねじを増やしてください。

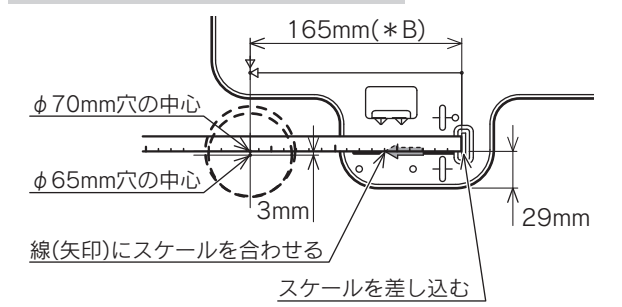


7 配管穴の位置を決める

- 取付板にスケールを差し込んで配管穴の位置を決めます。

- 左右で配管穴中心までの寸法が異なります。穴を開ける前によく確認してください。

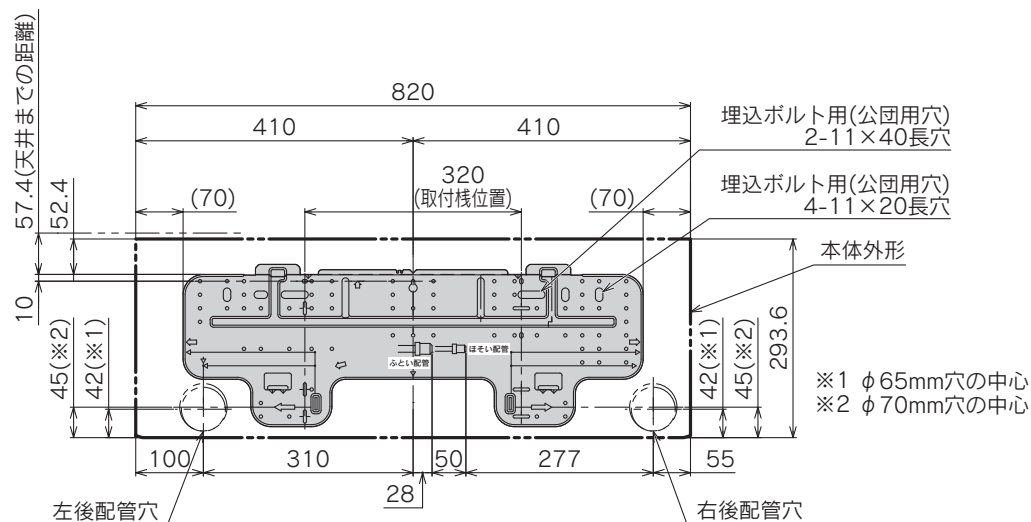
取付板の左側に配管穴をあける場合



取付板の右側に配管穴をあける場合

- *Bの寸法は210mmです。

室内機取付寸法図

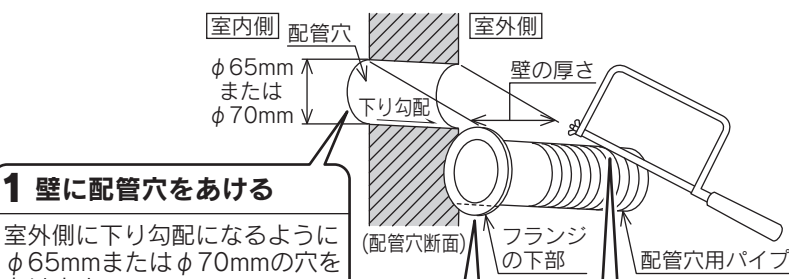


(単位：mm)

4 配管穴あけおよび配管穴用パイプ・配管穴ふたの取付け

警告

- メタルラスやワイヤラス張りなどの壁を貫通させる場合は、内外接続電線がメタルラスやワイヤラスなどに接触しないように必ず配管穴用パイプと配管穴ふたを取り付けてください。火災や感電の原因になります。

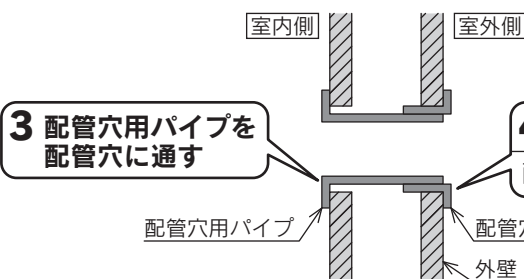


1 壁に配管穴をあける

- 室外側に下り勾配になるようにφ65mmまたはφ70mmの穴をあけます。

2 配管穴用パイプを切断する

- 壁の厚さに合わせて切断します。右後・左後配管の場合は、フランジの下部を切り取ります。※フランジの上部が取付板にあたる場合は、あたる部分を切り取ってください。



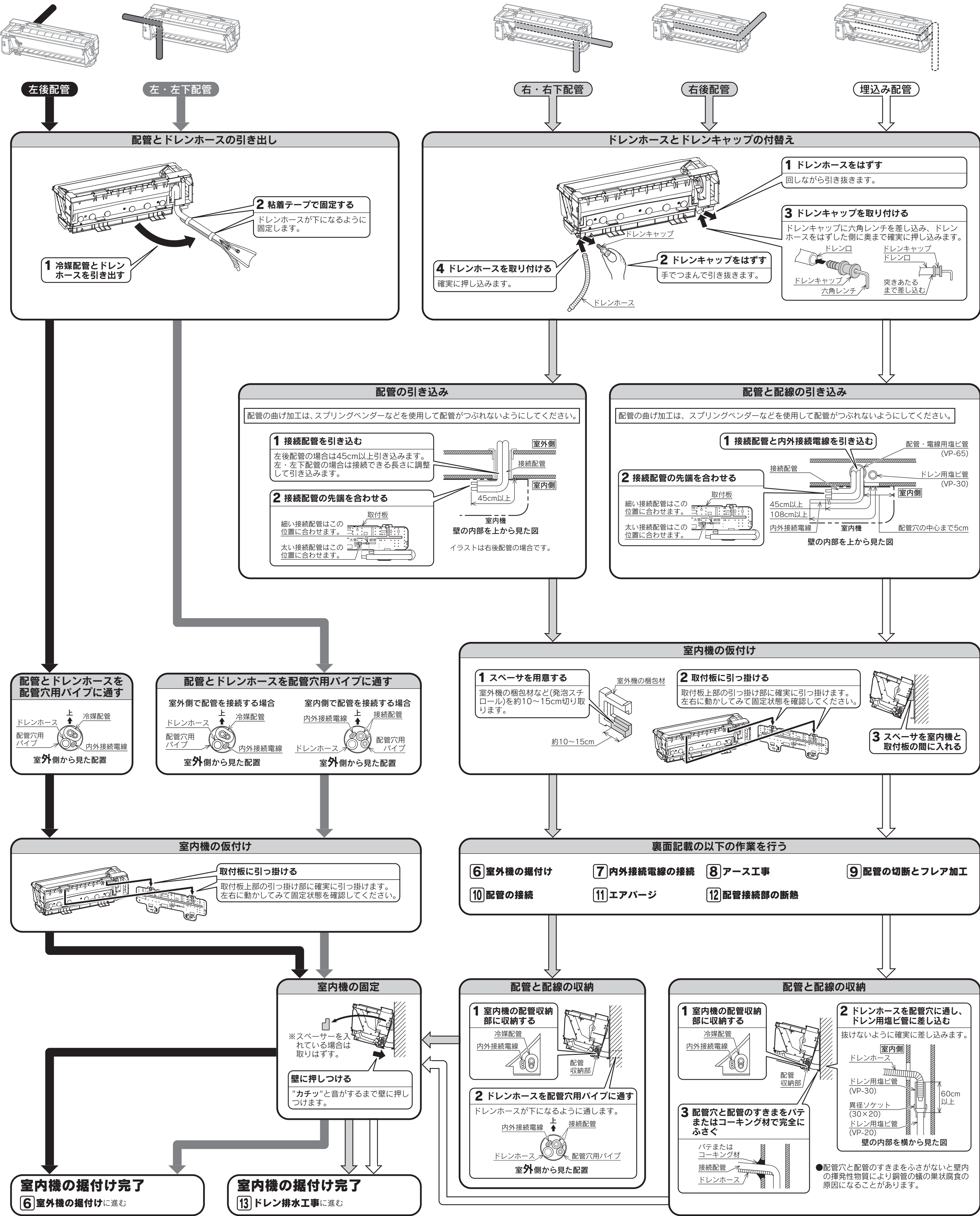
3 配管穴用パイプを配管穴に通す

4 配管穴ふたを取り付ける

- 配管穴用パイプに取り付けます。

5 室内機の据付け

- 該当する配管引廻方向の流れに従って工事を行ってください。(同じ色の矢印をたどってください。)
- 配管接続部が室内側になる場合は、接続部の断熱をするため接続配管の断熱材の切取り範囲をできるだけ少なくしてください。
- 吹出し口が大きく開いています。ねじなどを落とさないように注意してください。

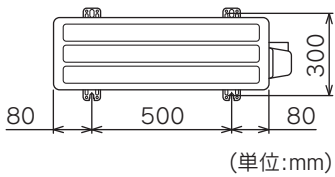


6 室外機の据付け

- 壁面・屋根・屋上に取り付ける場合は地震・強風などを考慮し、据付台を釘や針金などで確実に固定してください。
- 振動が家屋に伝わるおそれのある場合は、脚防振ゴムを使用したり、防振マットをはさんだりして固定してください。

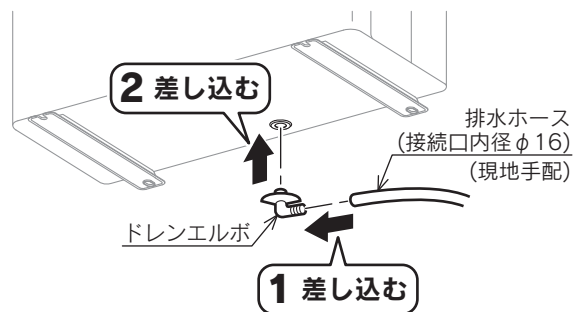
固定用穴位置

- コンクリート、または丈夫な台にボルト (M10) とナットで強固にかつ水平に固定してください。

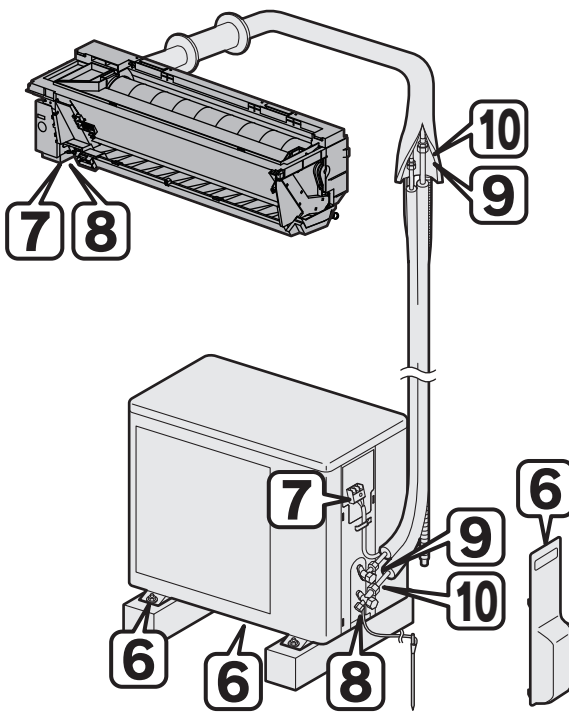


ドレンエルボの取付け

- 0℃以下の気温が連続する地域ではドレンエルボは取り付けないでください。ドレン水が凍結し、ファンが回らなくなるおそれがあります。



バルブカバーの取りはずし



7 内外接続電線の接続

警告

- 内外接続電線は接続後、コード止め金具で固定してください。接続が不完全な場合は、端子台接続部の火災・発熱・感電の原因になります。

注意

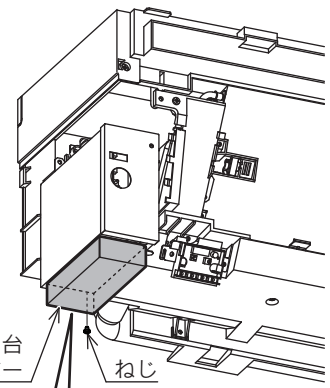
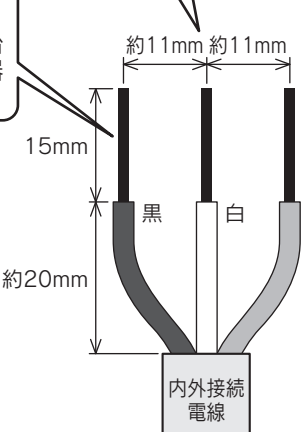
- 皮むきの寸法は15mmです。短いと接触不良になり、発熱の原因になることがあります。長いとショートや感電の原因になることがあります。

- 内外接続電線は平形ビニル絶縁ビニルシースケーブル (VVF φ1.6mmまたはVVF φ2.0mm) を使用してください。

1 心線の皮むきをする

15mm皮むきます。短いと接触不良となり、端子台の温度ヒューズが溶断して機器が全く作動しくくなります。

2 図に形を合わせる



3 端子台カバーをはずす

ねじ1箇所をはずし、奥にずらして取りはずします。

4 室内外の端子番号と対応する配線色をよく確認する

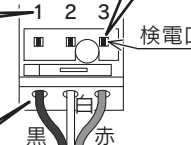
誤配線をするとな正常な動きができないだけでなく、制御機器が破損する場合があります。

5 内外接続電線を差し込む

室内外の同じ番号に同じ色の線を端子台の向きに合わせて差し込みます。

6 検電口から心線が見えるまで完全に差し込む

差し込みが不完全な場合、発熱により端子台の温度ヒューズが溶断して機器が全く作動しくくなります。



7 抜けないことを確認する

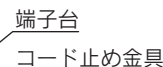
軽く引っ張ります。

8 コード止め金具で内外接続電線を固定する

8アース工事でアース線を室内機に接続する場合は、アース線を接続した後に固定します。

9 端子台カバーを取り付ける

元通りに取り付けます。



10 コード止め金具で固定する

11 ループをつくる

内外接続電線を抜く場合

- 端子台の□部を⊖ドライバーなどで押しながら内外接続電線を引っ張ります。

8 アース工事

警告

- アース線の取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従ってください。不備があると感電の原因になります。
- ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などにアース線を接続しないでください。

アース線	φ1.6mm (2.0mm ²) 以上
------	---------------------------------

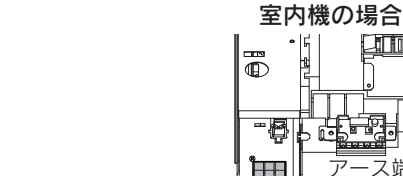
接地の基準

- 設置場所によって異なります。表に従ってください。

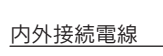
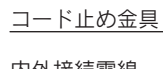
水気のある場所	漏電遮断器を取り付け、更にD種接地工事が必要です。
湿気のある場所	D種接地工事が必要です。
乾燥した場所	D種接地工事は法的には除外されますが安全のため接地工事をしてください。

D種接地工事

- アース線を室内機または室外機のどちらかのアース端子に図のように接続してください。
- 電気工事士のかたが行ってください。
- 接地抵抗は必ず100Ω以下にしてください。
- ただし、漏電遮断器を取り付ける場合は500Ω以下であることを確認してください。
- 特にこの機器は周波数変換器 (インバータ) を内蔵していますので、静電気による帯電およびノイズを吸収するために、アース工事を行ってください。

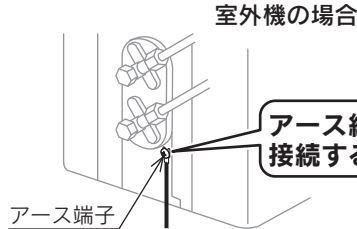


1 アース線をアース端子に接続する



2 コード止め金具でアース線と内外接続電線を固定する

固定後、7内外接続電線の接続の9に従って端子台カバーを取り付けます。



アース線をアース端子に接続する

9 配管の切断とフレア加工

1 バイブカッターで接続配管を切断する

2 リーマで内側のバリ取りをする

切粉が配管内に入らないように配管を下向きに行います。

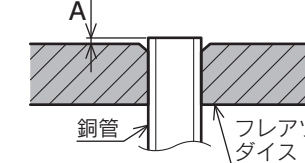
3 フレアナットを接続配管に通す

4 フレア加工をする

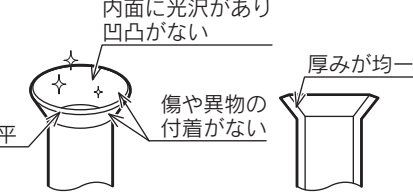
出し代	R32またはR410A用 フレアツール (クラッチ式)
A寸法 (単位:mm)	0~0.5

※出し代の寸法調整は出し代調整用銅管ゲージ (フレアアタッチメント) を使用すると便利です。

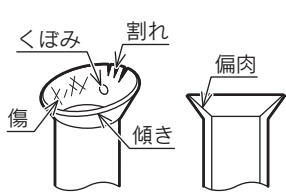
- 銅管出し代: A



- 正しい加工



- ✕誤った加工



10 配管の接続

- ガス側配管 (太い管) から接続すると簡単にできます。

- 配管の曲げ加工は、スプリングベンダーなどを使用して配管をつぶさないようにしてください。また、室外機側はできるだけ曲げ半径を大きくしてください。
- 配管の中にゴミ・砂などの異物や雨水などが入らないように特に注意してください。
- 配管の中心をよく合わせず強引にフレアナットを締め付けるとねじ山を破損し、ガス漏れの原因になることがあります。
- フレアナットは、必ずトルクレンチを使用して規定のトルクで確実に締め付けてください。トルクが強すぎるとナットが割れるなど強度低下や応力腐食割れの原因になることがあります。弱すぎるとガス漏れの原因になることがあります。
- 接続に不備があるとガス漏れだけでなく、冷凍サイクル故障の原因になることがあります。

室内機

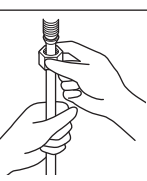
- 室内機には冷媒ガスが入っていないので、フレアナットをはずしても「ブシュッ」という音はしません。



1 接続配管の中心を合わせる

2 フレアナットを手で充分締める

接続配管が一直線になるように片手で支持しながら締めます。



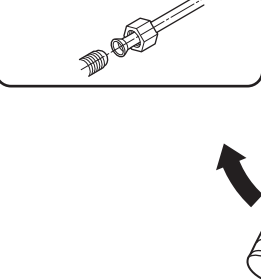
3 スパナ側を固定し、トルクレンチを使用して規定のトルクで締め付ける

フレアナット締め付トルク

管径 (φ)	締め付トルク
液 側6.35mm (1/4")	16±2N・m (163±20kgf・cm)
ガス側9.52mm (3/8")	38±4N・m (387±40kgf・cm)

室外機

1 接続配管の中心を合わせる



2 フレアナットを手で充分締める

接続配管と接続口の中心が一直線上になるように片手で支持しながら締めます。

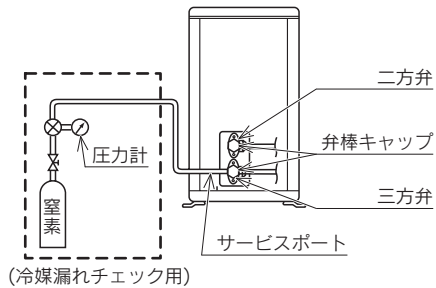


3 トルクレンチを使用して規定のトルクで締め付ける

■気密試験について

- 気密試験を行う場合は、以下に従ってください。

1. 室外機の二方弁と三方弁は全開のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック (気密試験) を行い、圧力低下がないことを確認する。気密試験は、高圧部の設計圧力 (4.28MPa) まで昇圧させてください。
2. 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。



11 エアパージ(真空ポンプ方式)

警告

- 作業中に冷媒ガスが室内に漏れた場合は換気してください。また、据付工事終了後は冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させないでください。冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 圧縮機を運転する前に確実に接続配管を取り付けてください。異常高圧により破裂やけがの原因になります。

エアパージは地球環境保護の観点から「真空ポンプ方式」でお願いします。

- 冷媒は規定量しか入っていません。「真空ポンプ方式」以外でエアパージを行った場合、能力や省エネ性能が落ちる場合があります。
- 真空ポンプは必ず逆流防止機構付きを使用してください。
- 真空ポンプのオイルが冷凍サイクル内に混入すると故障の原因になることがあります。
- ゲージマニホールド・チャージホース・逆流防止用真空ポンプアダプタは、必ずR32またはR410A専用品を使用してください。
- はじめにゲージマニホールドと真空ポンプの取扱説明書をよくお読みになり、正しく使用してください。
- ゲージマニホールドのハンドルHiは閉めたまま以下の作業を行います。

1 三方弁のサービスポートのキャップと二方弁・三方弁の弁棒キャップをはずす

サービスポートのキャップ
弁棒キャップ

2 チャージホース(低圧側)の突起側をサービスポートに接続する

チャージホース

3 チャージホース(中央)の突起側を真空ポンプに接続する

真空ポンプ

4 ハンドルLoを全開にする

全開
ハンドルLo

5 真空ポンプを運転して真空引きを15分以上行う

逆流防止用真空ポンプアダプタ
ゲージマニホールド
ハンドルHi
(常に開めたまま)

6 ハンドルLoを開めて真空ポンプの運転を止め、ゲージの針が戻らないことを確認する

1〜2分間はそのままの状態を確認します。
(ゲージの針が戻る場合は、各接続部を点検してフレアナットをいったん緩め、規定のトルクで締め直してから再度真空引きを行ってください。)

閉める
ハンドルLo

7 二方弁の弁棒を六角レンチを使用して反時計方向に90°開け、6秒後に閉める

閉
90°開
六角レンチ

8 室内外の配管接続部のガス漏れ検査をする

石けん水を塗布する、またはガス漏れ検知器(HFC冷媒(R32やR410Aなど)用)を使用します。

9 サービスポートからチャージホースをはずす

チャージホース

10 二方弁・三方弁を開ける

弁棒を軽くストッパーにあたるまで、反時計方向に回します。

11 1ではずしたサービスポートのキャップと二方弁・三方弁の弁棒キャップをトルクレンチを使用して規定のトルクで締め付ける

	締め付トルク
サービスポートのキャップ	12N・m(122kgf・cm)
弁棒キャップ	15N・m(153kgf・cm)

トルクが強すぎるとキャップが割れる原因になります。弱すぎるとガス漏れの原因になることがあります。

12 キャップ周辺のガス漏れ検査をする

石けん水を塗布する、またはガス漏れ検知器を使用します。

14 吹出口の取付け

1 吹出口を差し込む

室内機の上に吹出口をスライドして差し込みます。ツメが4箇所あります。ツメがささり、吹出口が浮かないことを確認してください。

ツメ
室内機
ツメ
ツメの穴
ツメの穴
吹出口

2 吹出口をねじ止める

吹出口をねじ2箇所て固定します。

15 前パネルの取付け

1 配管用ふたを切り取る

配管を出した方向の配管用ふた(合印)1箇所を金のこぎりなどで切り取ります。

2 前パネルを取り付ける

前パネルのツメ(○部、4箇所)を引っ掛けます。側面にもツメがあります。ツメ(○部、4箇所)を引っ掛けると側面のツメ(□部、2箇所)は自動的に引っ掛かります。側面のツメ(□部、2箇所)が引っ掛かっていることを確認してください。

側面のツメ
このツメを先に引っ掛ける

3 ねじで固定する

2 室外機の準備ではずしたねじ(3本)で固定します。

12 配管接続部の断熱

1 断熱材の長さを調整する

冷媒配管の断熱材と接続配管の断熱材は、5〜10mm長めに切断します。

5〜10mm

2 断熱材を突き合わせる

突き合わせ部に若干力が加わり、すきまがでないようにします。断熱材が重ならないようにしてください。

3 粘着テープを巻いて固定する

突き合わせ部に約10周巻き、断熱材が割れている部分は3箇所巻きます。

室内側で配管を接続している場合のみ、4・5を行う。

4 非粘着テープを巻く

粘着テープを巻いた箇所全体に巻き付けます。

5 非粘着テープを粘着テープで固定する

両端を約5周巻きます。

13 ドレン排水工事

注意

- ドレンホースは必ず下り勾配にして確実に排水するように配管してください。結露水が家財などを濡らす原因になることがあります。
- 断熱していないドレンホースやその接続部が室内にある場合は必ず断熱してください。

- 室内機のドレン皿に水を注ぎ、室外に確実に排水されることを確認してください。
- 誤ったドレン配管は行わないでください。

○ 正しい配管

下り勾配
50〜100mm

× 誤った配管

中高になっている
先が水につかっている
波打っている
先端と地面との間隔が50mm以下
排水溝に入っている
悪臭

気密性の高い住宅では市販の「エアコンドレンホース用逆止弁」(φ16用)を取り付けてください。強風時や換気扇を使用したときに、室内機からの水漏れやポコポコという異音の原因になることがあります。

16 天井取付枠の組み立て

1 天井取付枠を並べる

下図のように天井取付枠を並べます。刻印を合わせてください。

刻印
刻印
タッピンねじ(L8)

2 天井取付枠をねじ止める

タッピンねじ(L8・8本)で固定します。

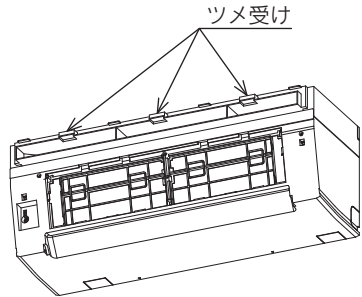
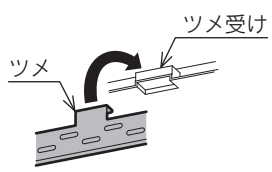
17 天井取付枠の設置

警告

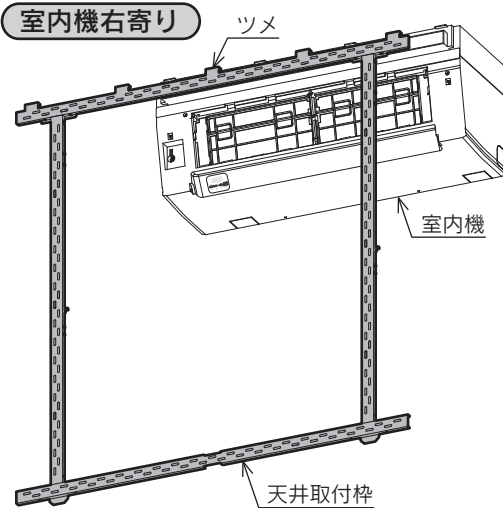
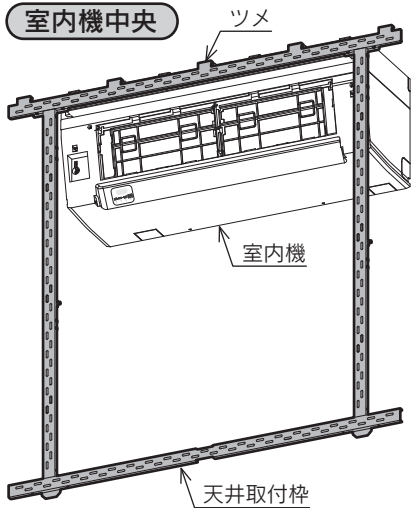
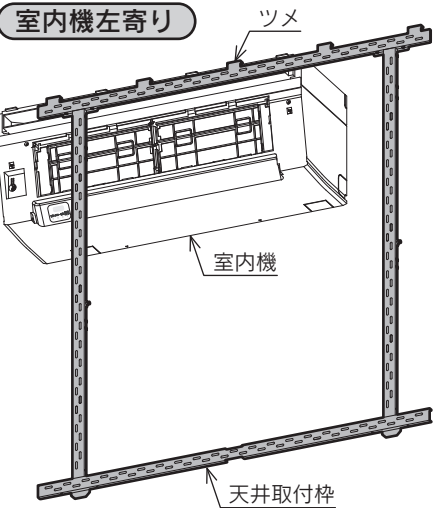
- 天井取付枠は必ず天井裏の野縁に取り付けてください。
野縁にねじ止めしないと天井取付枠が落下するおそれがあります。

1 天井取付枠のツメを室内機のツメ受けに引っ掛ける

天井取付枠のツメ(3箇所)を室内機のツメ受けに引っ掛けます。

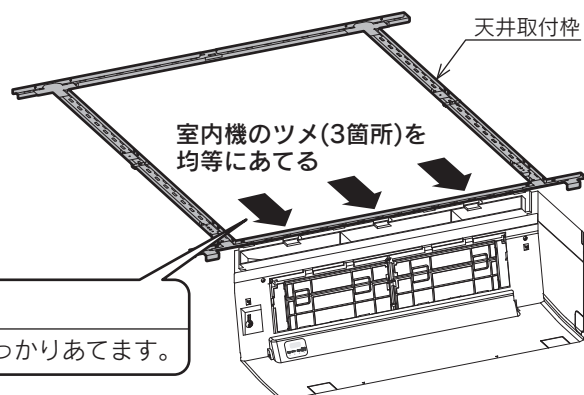
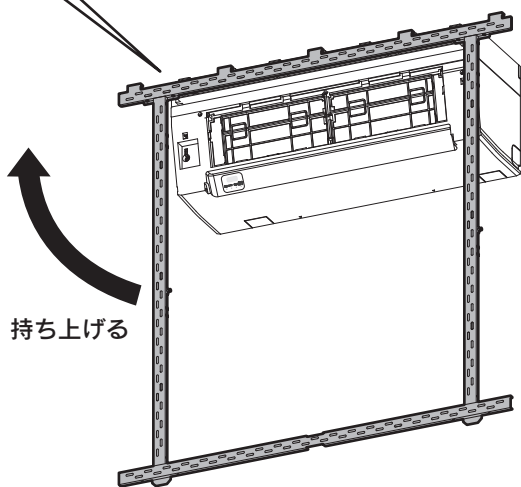


- 室内機とパネルの位置に合わせて天井取付枠を取り付けます。



2 天井取付枠を持ち上げる

天井取付枠を天井まで持ち上げます。

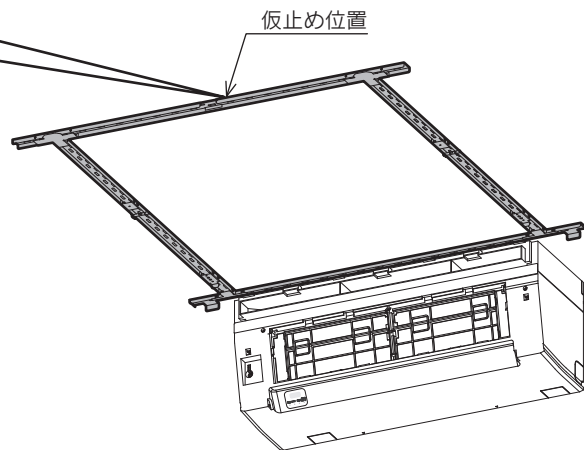


3 室内機にあてる

天井取付枠を室内機にしっかりあてます。

4 仮止める

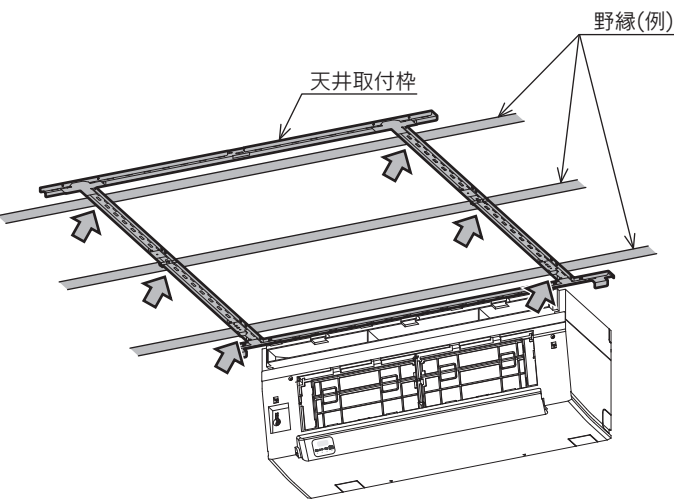
先端を仮止めます。



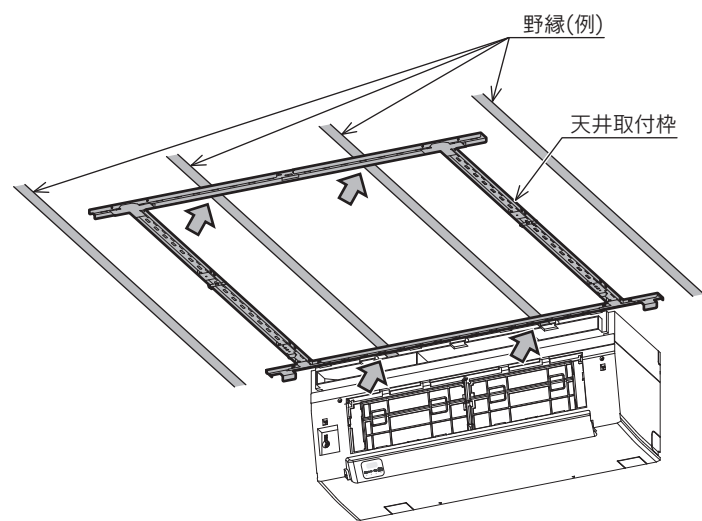
5 野縁にねじ止めする

天井裏の野縁を探してねじ止めします。野縁と天井取付枠が交差するところ(合印)はすべてタッピンねじ(L40)で固定します。
※最低1辺2箇所、合計4箇所以上必要です。

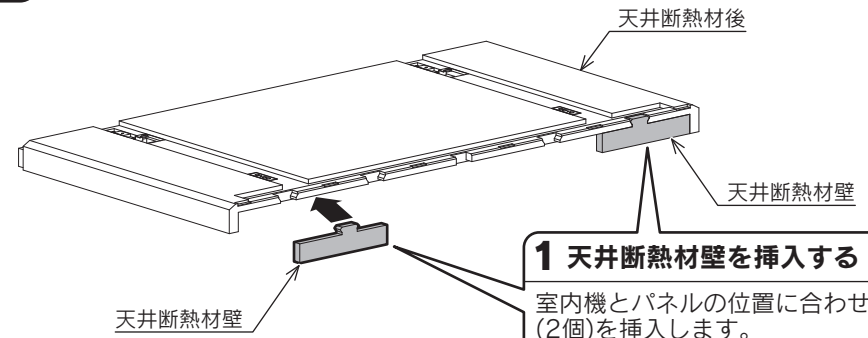
野縁(450mmピッチ)が室内機と平行の例



野縁(450mmピッチ)が室内機と垂直の例



18 天井断熱材の固定



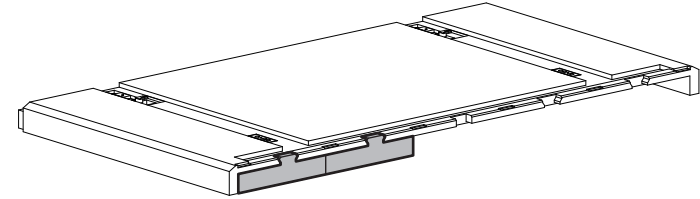
1 天井断熱材壁を挿入する

室内機とパネルの位置に合わせて天井断熱材壁(2個)を挿入します。

こちらから差し込みます。
天井断熱材壁の向きに注意してください。

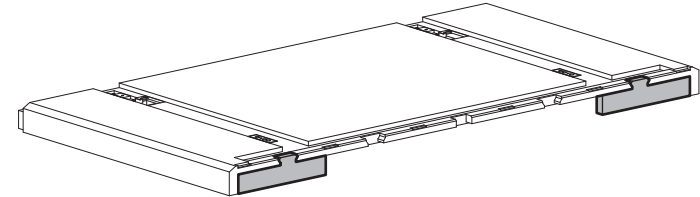
室内機左寄り

室内機側から見た図



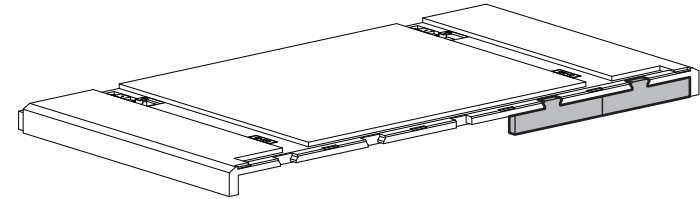
室内機中央

室内機側から見た図



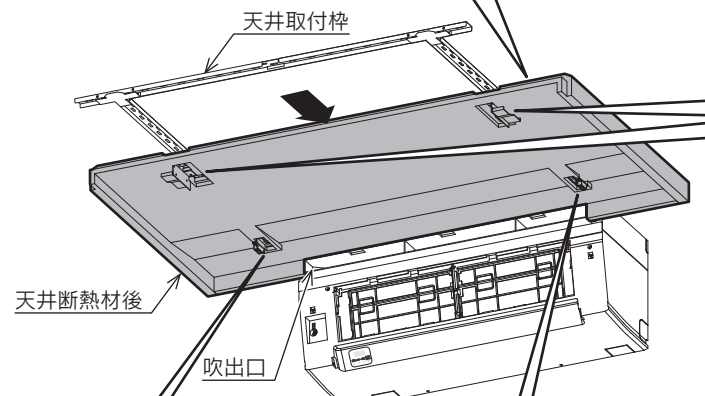
室内機右寄り

室内機側から見た図



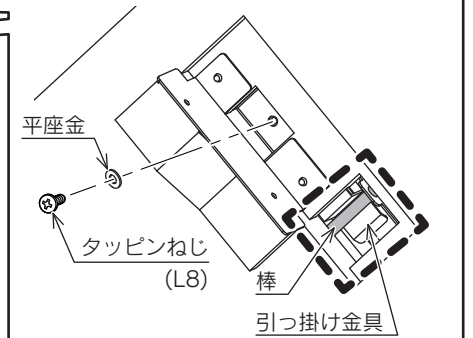
2 天井断熱材後を室内機の吹出口に載せる

天井断熱材の凹部を室内機の吹出口に載せて奥にあたるまで押し込みます。



3 引っ掛け金具を天井取付枠の棒に引っ掛けてねじ止める

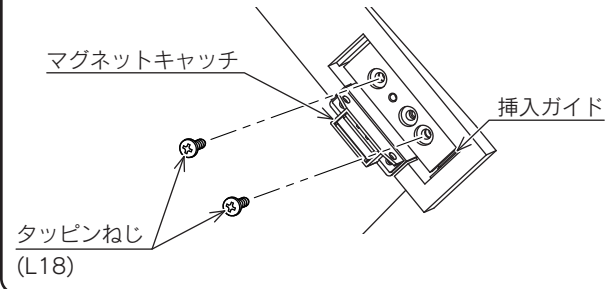
天井断熱材後を少し手前に引いて引っ掛け金具を棒に引っ掛けます。
棒に引っ掛けたら再度、奥にあたるまで押し込み、タッピンねじ(L8)と平座金で固定します。



点線部の穴から引っ掛けるところを確認します。

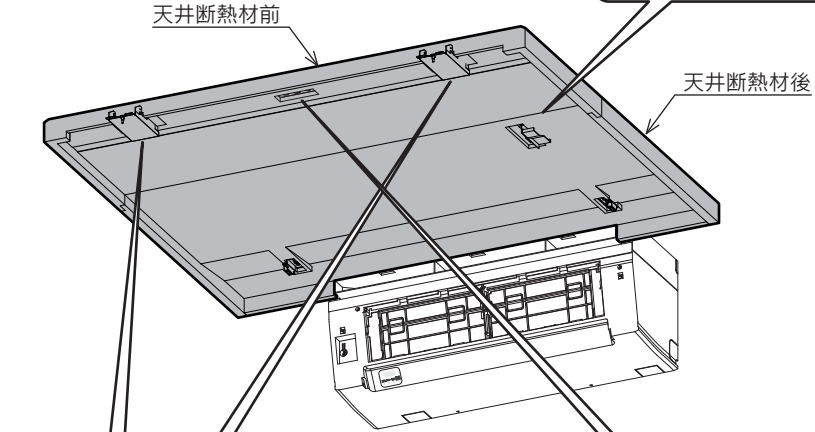
4 マグネットキャッチを取り付ける

マグネットキャッチを穴に差し込み、タッピンねじ(L18)で固定します。



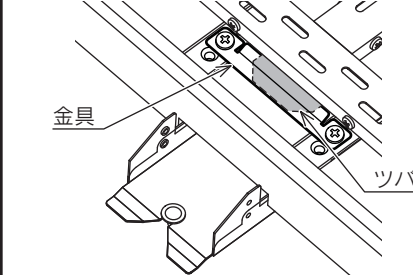
5 天井断熱材前を天井断熱材後に載せる

天井断熱材後の凸部に天井断熱材前の凹部を載せて奥にあたるまで押し込みます。



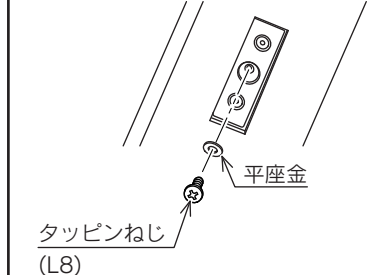
6 天井断熱材前の金具を天井取付枠のツバに引っ掛ける

両方の金具を両手で持って、引っ掛け金具の天井側の金具を天井取付枠のツバに引っ掛けます。



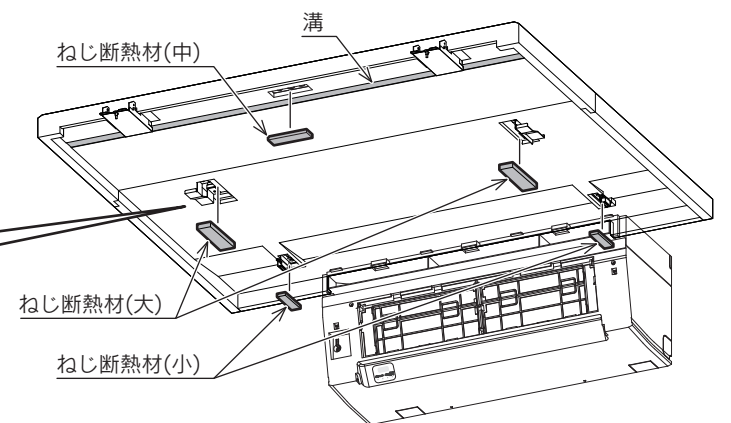
7 天井断熱材前を固定する

天井断熱材前を天井断熱材後にしっかり押しあててタッピンねじ(L8)と平座金で固定します。



8 ねじ断熱材を貼る

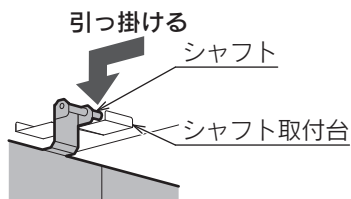
ねじ止めた箇所(5箇所)にねじ断熱材を貼り付けます。
貼り付けないと結露の原因になります。



- 吹出口直前に照明などがある場合は、溝に風量バランス調整板を両面テープで取り付けることができます。

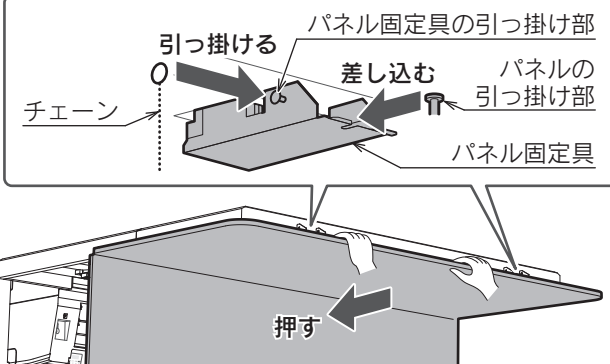
19 パネルの取付け

1 パネルのシャフト(2箇所)を天井断熱材後のシャフト取付台に引っ掛ける

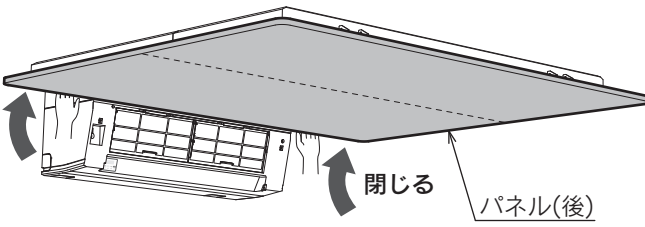


2 パネル(前)を開じる

- (1)パネル(前)のチェーン先端の輪をパネル固定具の引っ掛け部(2箇所)に引っ掛ける。
(2)パネル(前)を開じ、矢印の方向に押してパネルの引っ掛け部(2箇所)をパネル固定具に差し込む。

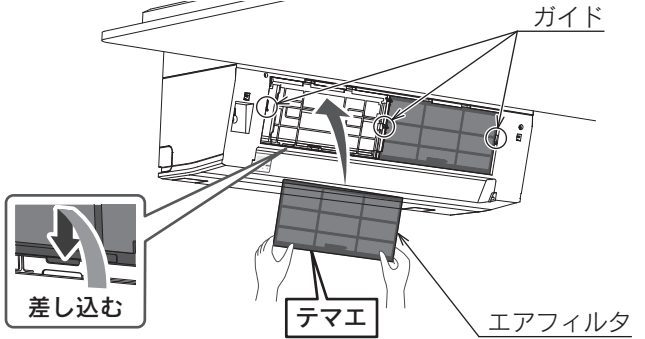


3 パネル(後)を開じる



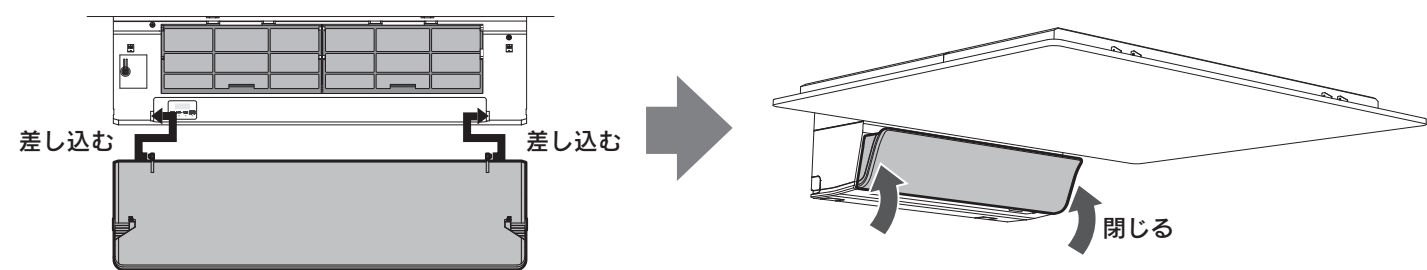
4 エアフィルタ(2枚)を取り付ける

[テマエ]表示が正面になるように取り付けます。
(左右の形状は同じです。)
ガイドの下を通してください。



5 吸込パネルを取り付ける

- (1)ヒンジを内側に寄せて穴に差し込む。
(2)吸込パネルを開じる。



20 仕上げ

配管

1 非粘着テープを巻く場合は下から上へ巻く

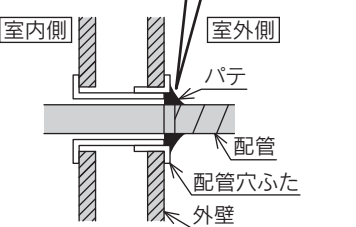
非粘着テープの両端は粘着テープを約5周巻いて固定してください。

2 サドルで外壁に固定する



壁貫通部

配管穴ふたと配管のすきまをパテで完全にふさぐ



21 工事のチェックと試運転

工事のチェック項目

□の中に✓印を入れてチェックしてください。

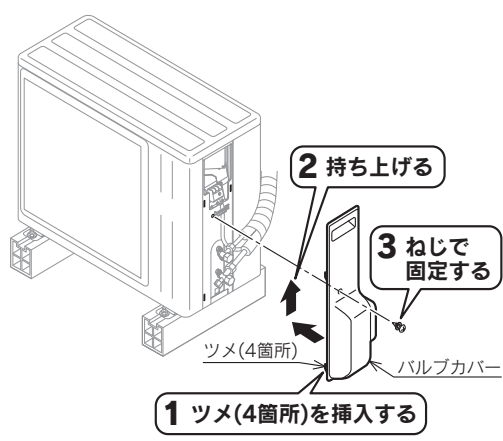
試運転前に確認してください。

- 据付場所の選定条件を満たしていますか？
□電源電圧は規定通りですか？
(電源プラグを差し込む前に、コンセントの電圧を確認してください。)
□内外接続電線の接続は確実ですか？
□内外接続電線の端子番号は合っていますか？
□配管接続部は断熱していますか？
□アース工事(D種接地工事)は行われていますか？
□二方弁・三方弁は全開になっていますか？
□配管接続部のガス漏れ検査は行いましたか？
□二方弁・三方弁・サービスポートのキャップが確実に閉まっていますか？
□室内機の固定は確実ですか？

試運転を開始してください。

- お客様に操作方法を取扱説明書でよく説明してください。
□異常音はありませんか？
□温度調節はできますか？
□ドレン皿の水がスムーズに流れていますか？

22 バルブカバーの取付け



機能設定内容の変更

変更前の準備

- 1.室内機の電源プラグをコンセントから抜いて10秒間以上経過した後、再度差し込みます。
2.リモコンに乾電池を入れます。(乾電池が入っている場合は、一度乾電池をはずして停止スイッチを3、4回押した後、再度入れ直してください。)
運転や現在時刻を設定する前に機能設定内容の変更を行ってください。

機能設定内容の変更

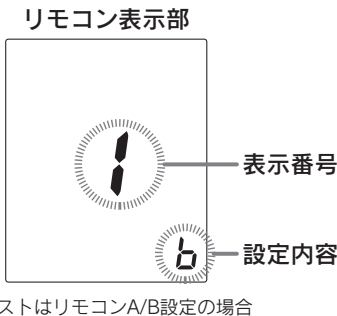
1 温度調節スイッチ▼と時刻設定スイッチを同時に約5秒間押す

「ビッ」とブザーが鳴り変更が確定して、通常の表示に戻ります。

2 温度調節スイッチ▼▲を押して変更したい項目の表示番号を選択する

2・3を繰り返して他の項目も続けて変更できます。

3 すすむ・もどるスイッチを押して設定内容を変更する



機能設定内容の変更ができない場合は、「変更前の準備」からやり直してください。

表示番号	項目	設定内容	初期設定
1	リモコンA/B設定	同じ部屋に室内機を2台設置した場合、1つのリモコンで2台とも作動する場合があります。室内機を同時に作動させたくない場合は、一方のリモコンと室内機を「b」に設定してください。 (「リモコンA/B設定」は、変更しない室内機の運転を停止し、電源プラグを抜いてから行ってください。) A：信号A b：信号B	A
2	外部運転、停電自動復帰設定	通電開始時または停電復旧後の通電開始時に自動的に運転を開始させたいときに設定します。 oF：自動的に運転を開始しない 1：外部運転(通電を開始すると自動的に応急運転を開始します。) 2：停電自動復帰(停電が復旧し通電が開始されると、自動的に停電前の設定で運転を開始します。)	oF
3	室外機騒音優先レベル設定	室外機の運転音を下げたいときに選択できます。 (最大能力に制限がかかります。能力が制限されるため設定した温度に達するまでに時間がかかる場合があります。) St：標準 1：静音弱 2：静音中 3：静音強	St
4	暖房運転最高温度設定	暖房運転時の最高設定温度を選択できます。 St：26℃ 1：24℃ 2：28℃ 3：30℃	St

※停電やリモコンの乾電池を交換しても設定内容は、記憶しています。
※表示番号1・2・3・4以外は未使用です。

ポンプダウン

警告

- 接続配管をはずす前に圧縮機を停止してください。
空気などを吸入して冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。



この製品にはGWP(地球温暖化係数)が675のフロン類が封入されています。
地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

- 増改築・引越し・修理・廃棄などで寝室用パネルエアコンを取りはずす場合は、冷媒ガスを大気中に放出しないようにポンプダウンを行い、室内機および配管内の冷媒ガスを室外機に回収してください。

1 二方弁と三方弁の弁棒キャップをはずす

弁棒キャップ

2 強制冷房運転を行う

室内機の応急運転スイッチを押し、「ビッ」とブザーが鳴ってから、そのまま約5秒間押し続け、「ビビッ」とブザーが鳴ったら指を離してください。
強制冷房運転をはしめます。
応急運転スイッチを10秒間以上押し続けると、強制冷房運転を行いません。

3 約5分後二方弁の弁棒を六角レンチを使用して閉め、そのまま強制冷房運転を1～2分間行う

六角レンチ

4 三方弁を開める

三方弁

ビッ……約5秒間押し続ける
ビビッ……指を離す

応急運転スイッチ

5 強制冷房運転を停止する

応急運転スイッチをもう一度押すと「ビー」とブザーが鳴って、強制冷房運転が停止します。
(二方弁と三方弁を開けたまま長時間運転をすると故障の原因になることがあります。)

株式会社フジタ

本社 151・8570 〒東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目25番2号 修養団SYDビル